



聖書のなかの時間表現と漢語文理訳

著者	塩山 正純
雑誌名	関西大学東西学術研究所紀要
巻	51
ページ	A485-A495
発行年	2018-04-01
その他のタイトル	Analysing the Characteristics of the Translation of Time in the New Testaments of Traditional Chinese Wenli Version
URL	http://hdl.handle.net/10112/16160

聖書のなかの時間表現と漢語文理訳

塩 山 正 純

Analysing the Characteristics of the Translation of Time in the New Testaments of Traditional Chinese Wenli Version

SHIOYAMA Masazumi

This paper deals with the translation of time expressions between the two different cultures of modern Western and China and considered the Chinese version of the Bible translated by modern Western missionaries, while also revealing how the Western missionaries translated the time of the Western scripture of the Bible into Chinese as part of a process of exchange between the language and culture of West and East. In the translation before the early 19th century, a certain degree of confusion emerges when translating expressions of time and the amount of time. However, as the times change, the time expressions in the Chinese literary translation of the Bible all converge to the style of traditional expression.

キーワード：漢訳聖書 (New Testament in Chinese version)、異文化接触 (culture Contact)、文理 (Wenli)、時間 (time)、時段 (period of time)、時量 (time length)

0 はじめに

清代以前の中国には固有の伝統的な時間の表現形式があり、尾崎（1980）によれば、一日は九十六刻、或は十二辰刻に分割され、一辰刻は現在の120分間にあたり、元々は現在の60分間を表す表現形式は無かった¹⁾。十九世紀末から二十世紀初頭にかけて南方沿岸部の諸都市で60分間を表す“～點鐘”の表現形式が現れ、ようやく中国が60分間の新しい時間概念の表現を持つに至った。近代における中国と西洋との言語文化接触の過程で、漢訳聖書は如何にして西洋の異なる文化の時間表現を中国語に変換したのであろうか。筆者は過去に初期漢訳聖書の時間表現について取り上げたことがあるが²⁾、本稿ではさらに19世紀後半から20世紀初頭にかけての文理訳聖書を考察の対象に加えて、聖書の文言での漢訳における時間表現がどのように変化して行ったのかを見てみたい³⁾。本稿が考察の対象とする漢訳聖書は以下の九種である。

- (1) デイアス『聖經直解』1636年（【直】と略称、以下同。)
- (2) バセ(?)『四史攸編』18世紀初頭（【四】)
- (3) モリソン『神天聖書』新約1814年、全書1823年（【神】)
- (4) マーシュマン『聖經』新約1816年、全書1822年（【聖】)
- (5) モリソン改訳『救世主耶穌新遺詔書』1835年から1837年（【改】)
- (6) 香港英華書院『新旧約全書』1855年（【DL】)
- (7) ブリッジマン・カルバートソン『新約全書』1869年（1864年初版）（【BM】)
- (8) グリフィス＝ジョン『新約全書 文理』1898年（1886年初版）（【GF】)
- (9) 上海大英聖書公会文理和合訳本『新約全書』1924年（1906年初版）（【和】)

1 時間を問う表現

【神】を翻訳したモリソンは、自身が編纂した『英華字典』（1822）のなかで時点を尋ねる英語の疑問副詞“*When*”の項を“*WHEN, what time? 幾時 ke she? 甚麼時候 shin mo she how?*”

1) 尾崎實（1980）8頁参照。

2) 塩山正純（2009）93-109頁参照。

3) 聖書の時間観念或は聖書における時間の考え方という観点からの論考については、武藤一雄（1959）「時と永遠——聖書の時間論についての一考察——」『哲学研究』第459号、鍋谷堯爾（1990）「旧約聖書における「時間」の考え方——イザヤ書44章12～22の動詞の時制研究を一事例として——」『八代学院大学紀要』第36号などがあるが、本稿では専ら聖書漢訳において、一日24時間の時点と時段を西洋の言語と中国語との間でどのように解釈・変換していたのか、という問いについてのみ考察した。

と記述しているが⁴⁾、【神】にも次のように時点を尋ねる箇所がある。

Ma13-33：爾自慎醒守而祈禱蓋爾不知當時何時辰到也

(英語欽定訳：Beware, keep alert; for you do not know when the time will come.)

Ma13-4：告我們知是情幾時將得成又是情得驗時將有何號也

(英語欽定訳：“Tell us, when will this be, …”)

L21-7：伊等問之曰師何時將有是情而彼將到成之時有何祥

(英語欽定訳：They asked him, “Teacher, when will this be, …”)

具体的な時刻を尋ねる場合には【神】も例えば次の例のように“幾時”を使用する。

J4-52：且其問伊等幾時始好 答曰昨日七時瘧退

(英語欽定訳：So he asked them the hour when he began to recover, and they said to him, “Yesterday at one in the afternoon the fever left him.”)

初期漢訳聖書と文理解聖書の同一の章節の翻訳はそれぞれ【四】が“幾時”で問うて“七時”で答え、【聖】が“何時”で問うて“七時”で答え、【直】が“何時”で問うて“未初”で答え、【改】が“何時”で問うて“未時”で答え、【DL】が“何時”で問うて“未時”で答え、【BM】が“何時”で問うて“未時”で答え、【GF】が“何時”で問うて“未時”で答え、【和】が“何時”で問うて“未刻”で答えている。ここからも文理解聖書での時間表現が疑問の“何時”、答えが伝統的な十二支の表現である“未”に収斂されていることが分かる。

2 夜の時間（時点）

【神】が夜の時間を描写するときには、例えば以下の用例のように“midnight”を“半夜”、“by night”を“夜間”、“all night”を“全夜”と翻訳している。

M2-14：故爾醒守蓋不知家主幾時回來或晚上或半夜或雞鳴時或早晨

(英語欽定訳：in the evening, or at midnight, or at cockcrow, or at dawn.)

Ma13-35：其則起身取嬰兒而夜間往向以至百多

4) 『英華字典』(1822) 468頁参照。

(英語欽定訳：Then Joseph got up, took the child and his mather by night, and went to Egypt.)

L5-5：西們答日師吾等已全夜辛苦打魚而無所拿著惟因爾所言我即下網

(英語欽定訳：Simon answered, “Master, we have worked all night long but have caught nothing.)

のちの文理訳聖書はこれらと同一の時間をどのように翻訳したかと言うと、【改】が“by night”を“星夜”に、“all night”を“終夜”に、【DL】が“by night”を“夜”に、“all night”を“終夜”に、【BM】が“midnight”を“中夜”に、“by night”と“all night”を“終夜”に、【GF】が“by night”を“夜間”に、“all night”を“終夜”に、そして【和】が“by night”を“夜”に、“all night”を“終夜”に翻訳している。

清代以前の中国には専ら夜間の時刻を表現する形式があり、日没から日出までの夜間を五つの時段に分割し、各時段は現在の時間で約二時間で、それぞれが“初更、二更、三更、四更、五更”と呼ばれ、“初更”が表す時段は大抵現在の時間で言うところの夜七時から九時のあいだで、“五更”が表す時段は現在の時間で言うところの午前三時から五時のあいだ辺りであった。聖書の本文にも夜間の具体的な時刻を描写している場面が数多いが、幾つか異なる言い方の中国語で表現されている。

【神】は例えばL12-38の“其或回於二三更遇情如是彼役有福矣”のように“更”で夜間の場面の具体的な時刻を示しているが、後続の漢訳聖書の同一章節はそれぞれ【改】が“二三更時分”、【DL】【BM】【GF】が“或二更至或三更至”、【和】が“或二更或三更”と翻訳しており、いずれにしても“二更”から“三更”の範囲の中に納まっている。ちなみに当該箇所英語欽定訳は“If he comes during the middle of the night, or near dawn, and finds them so, blessed are those slaves.”、ギリシャ語原典英語対訳は“if in the second and if in the third watch”となっており、“the third watch”が指しているのは夜間の十二時から午前三時の時段である。【神】は或は原典の“the second”と“the third”を“二”と“三”に翻訳してから中国の伝統的な夜間の時間単位である“更”を付加しており、原典が指す時間と中国の“更”が指す時間との間には距りがあることを考慮していないかのようなようである。結果としてこれが原典と漢訳聖書が完全には一致しないという状況をもたらしている。

『新約聖書』には複数の福音書で同一の場面を描いている一節で同一の時間を異なる表現で表している箇所がある。例えば、『馬太(マタイ)』第14章25節(M14-25)と『馬可(マルコ)』第6章48節(Ma6-48)は、イエスが早朝に湖面を歩いて弟子のところに行く場面を描いている

が、【神】はこの場面をそれぞれ以下のように翻訳している。

M14-25：於夜四時耶穌走于海之面至伊等

(英語欽定訳：And early in the morning he came walking toward them on the sea.)

(ギリシャ語原典対訳：in the forth watch of the night)

Ma 6-48：…且約夜之四更其走海面就伊等而似欲過走

(英語欽定訳：he came towards them early in the morning, walking on the sea.)

(ギリシャ語原典対訳：About the forth watch of the night)

二つの例文中の時間表現のギリシャ語原典対訳の英語はいずれも“the forth watch”で、午前三時から午前六時までの時段に相当する。M14-25の中国語は“forth”と“witch”をそれぞれ別に“四”と“時”に直訳しているが、これで当時の読者が具体的な時間を想像できたかどうかは疑わしい。また、Ma 6-48の中国語は“四更”であるが、中国の伝統的な時間表現からすると“四更”が表すのは午前一時から午前三時までの時間帯であるはずで、この翻訳は原典が指していた時間帯を一つ前の時間帯に移してしまっていることになる。後続の漢訳聖書【改】【DL】【BM】【GF】【和】は全てM14-25とMa 6-48とをいずれも“四更”と翻訳している。ギリシャ語原典は夜の時間を四つの時間帯に分割しているが、一方で中国の伝統的な時間では夜の時間を五つの時間帯に分割する。こうしたことから、“更”の概念を使用すると、原語の意味を正確に中国語で表すのが不可能なことは自明である。それでもなお【改】【DL】【BM】【GF】【和】の文理解聖書はどうして“更”を使い続けたのか。その背景が何だったのかも考察に値する問題であるが、今後の課題としておきたい。

当時はさらに別の表現もあり、【神】の翻訳者であるモリソンの会話テキストである *Dialogues and detached sentences in the Chinese Language* (1816) には“[問] 長班又問往那裡去了 [答] 管家或說今早四鼓時便進朝裡去 (at the fourth beat of the drum)”のようなやり取りがある⁵⁾。太鼓を叩いて旧時の時間区分“更”を知らせる時には“鼓”も用いられたので、“四鼓”とは第四番目の太鼓を叩く時刻、間もなく日の出の“四更”のことである。この用例からは1816年当時の口語ではまだ旧時の伝統的な時間区分が使用されていたことを示している。

5) *Dialogues and detached sentences in the Chinese Language* (1816) 126-127頁参照。

3 昼間の時間（時点）

昼間の時間に関しては、ギリシャ語原典は午前六時を起点として、午前六時から一時間経過した七時（つまり“一時”）から現在で言うところの毎60分間を基本の時段として、時点を表示している。【神】にも“The third hour (nine o'clock)”を“三時”に、“the eleventh hour (five o'clock)”を“十一時”に翻訳した例がある。【神】の四つの福音書で数字を使って時刻を表しているのは15箇所あり、いずれも“時”或は“時分”や“第～時”のうちのいずれかの表現形式を用いている。

M20-5：又約六時其出又與九時而亦行如是

（英語欽定訳：When he went out again about noon and about three o'clock,)

（ギリシャ語原典対訳：[The] sixth and [the] ninth hour)

L23-44：自約六時到九時有黒在全地

（英語欽定訳：It was now about noon, and darkness came over the whole land until three in the afternoon.)

（ギリシャ語原典対訳：about [the] sixth hour and darkness was over [the] whole land until [the] ninth hour.)

L23-44と同一の場面を描写した Ma15-33は次のように翻訳している。

Ma15-33：夫從六時分至九時分黒暗滿地

（英語欽定訳：When it was noon, darkness came to over the whole land until three in the afternoon.)

（ギリシャ語原典対訳：[the] sixth hour, [the] ninth hour)

下表（表1-1及1-2）から、初期漢訳聖書の【四】【聖】【改】が時点を表示するときには、ギリシャ語原典の“第何番目の時間（時点）”の言い方によって直訳され、時点の単位を表す“時”“時分”“第～時”の三種類の言い方にも用法上の区別は見られない。【改】には“上午”と“下午”、【BM】にも“日中”といった曖昧な言い方はあるが、後続の文理訳聖書の【改】【DL】【BM】【GF】【和】は基本的にこれらの言い方を中国の伝統的な十二支による表現形式に改めて、最初期の【直】の表現形式に回帰している。

下表（表1）は初期漢訳聖書及び後続の文理解聖書における時刻（時点）の表現の一覧である。

（表1-1） 初期漢訳聖書

書章節	ギリシャ語対訳英語	英訳	【直】	【四】	【神】	【聖】
M20-3	The third hour	nine o'clock	巳初	三時	三時	三時
Ma15-25	[the] third hour	nine o'clock	-	-	三時分	三時分
J4-6	Hour it was about [the] sixth	about noon	-	六	六時	六時
M20-5	[The] sixth	noon	午正	六時	六時	六時
M27-45	[the] sixth hour	noon	正午	六時	第六時	第六時
Ma15-33	[the] sixth hour	noon	正午	-	六時分	六時分
L23-44	[the] sixth hour	noon	-	-	六時	第六時
J19-14	Hour it was about [the] sixth	noon	-	六時	六時	六時
J4-52	[the] seventh hour	one in the afternoon	未初	七時	七時	七時
M20-5	[the] ninth hour	three o'clock	申初	九時	九時	九時
M27-45	[the] ninth hour	three in the afternoon	申初	九時	第九時	第九時
Ma15-33	[the] sixth hour	three in the afternoon	申初	-	九時分	九時分
Ma15-34	the ninth hour	three o'clock	申初	-	九時分	九時分
L23-44	[the] ninth hour	three in the afternoon	-	-	九時	第九時
M27-46	[the] ninth hour	three o'clock	申初	九時	九時	九時
J1-39	[The] hour was about [the] tenth	four o'clock	-	十時	十時	十時
M20-6	the eleventh [hour]	five o'clock	酉初	十一時	十一時	十一時
M20-9	the eleventh hour	five o'clock	酉初	十一時	十一時	十一時

（表1-2） 後続の文理解聖書

書章節	ギリシャ語対訳英語	【改】	【DL】	【BM】	【GF】	【和】
M20-3	The third hour	上午	辰盡	辰盡	辰末	巳初
Ma15-25	[the] third hour	上午	辰盡	辰盡	辰末	巳初
J4-6	Hour it was about [the] sixth	正午	日中	日中	午正	日中
M20-5	[The] sixth	正午	日中	日中	日中	日中
M27-45	[the] sixth hour	正午	日中	午正	午正	午正
Ma15-33	[the] sixth hour	正午	日中	日中	午正	午正
L23-44	[the] sixth hour	正午	日中	午正	午正	午正

J19-14	Hour it was about [the] sixth	上午	日中	日中	午正	日中
J 4 -52	[the] seventh hour	未時	未時	未時	未時	未刻
M20- 5	[the] ninth hour	下午	未終	未終	未末	申初
M27-45	[the] ninth hour	未末	未終	未終	申初	申初
Ma15-33	[the] sixth hour	未末	未終	未終	申初	申初
Ma15-34	the ninth hour	未申相交	未終	未終	申初	申初
L23-44	[the] ninth hour	未末	未終	未終	申初	申初
M27-46	[the] ninth hour	未申相交	未終	未終	申初	申初
J 1 -39	[The] hour was about [the] tenth	申時	申正	申正	申正	申正
M20- 6	the eleventh [hour]	酉時	申盡	申盡	申末	酉初
M20- 9	the eleventh hour	酉時	申盡	申盡	申末	酉初

4 時量の表現

【神】が時量の“hour”或は“time”を表すときは、例えばM14-15の“已晚厥門徒就之曰此為野處而**時候**已過使眾散致伊等入村而自買糧食（英語欽定訳：When it was evening, the disciples came to him and said, “This is a deserted place, and the hour is now late; …）”やJ12-27の“今我靈神不安我何可言歟父救我出斯**時辰**乎然我特為斯**時辰**而來（英語欽定訳：Now my soul is troubled. And what should I say — ‘Father, save me from this hour’? No, it is for this reason that I have come to this hour.”）のように“時候”と“時辰”を用いている。

本稿冒頭でも触れたように、中国では旧時、一日全体を十二辰刻に分け、每一辰刻の二時間120分を“時辰”の単位で呼び、一日は“十二個の辰刻（即ち24時間）”ということであった。モリソンの『英華字典』には“HOUR”の項があり、“the twenty fourth part of a natural day, 半個時辰 pwan ko she shin, ‘half a she shin.’ or 一點鐘 yih teen chung, ‘one stroke of the clock.’”や“The Chinese divide the twenty-four hours into twelve 時辰 she shin; hence the above expressions. The European-Chinese books call an hour a 小時辰 seaou she shin, ‘little she shin.’”といった解釈が与えられている。同じくモリソンの『英華字典』（『五車韻府』1865）は“時”を“一個時辰 one two-hour period.”と解釈し、“刻”を“一個時辰有八刻 one she-shin (the space of two hours) contains eight kh’eh.”と解釈した。ここから当時のモリソンの『英華字典』の記述は基本的に“一個時辰”イコール120分であったことが見てとれる。

ロバート・モリソンには『西游地球聞見略伝』（1819年刊）という欧米事情を紹介する書物があるが、その本文に“惟伊之一個時辰不過係我們漢人的時辰之一半，且伊等分從子時，周到子時，為二十四個時辰（しかし彼らの“一個時辰”は我ら漢人の“時辰”の半分にしかならない。

そして彼らは子の刻から子の刻までを分けて、二十四個の“時辰”とする。)という一節があり⁶⁾、モリソンが西洋と中国の“時辰”の違いを認識していたことが見てとれる。【神】も例えば“且其就門徒遇伊等睡而語彼多羅曰何也爾不能同我醒守一個時辰乎”(M26-40)のように“時辰”で時量を表している。ちなみにその原典英語は“……“So, could you not stay awake with me one hour?” ([for] one hour)”である。初期漢訳聖書と文理訳聖書の同一章節の本文はそれぞれ【聖】が“一個時辰”、【改】が“一時辰”、【DL】から【和】はいずれも“片時”であり、原典英語と対照して見ると、【神】と【聖】の“一個時辰”、【改】の“一時辰”は基本的にいずれも60分間を表すことが分かる。つまり【神】と【聖】は“one hour”すなわち60分間を基本単位とする西洋式の時間概念で翻訳されているということである。

尾崎實(1980)は、当時ただ“一個時辰”とだけ言ったとしたら、聞き手或は読者にはそれが一体120分間を指すのか60分間を指すのか分かりかね、表す時量が未だ不明確であったと言うことを指摘しているが⁷⁾、【神】にもさらに“後約半箇時辰別人決稱曰此人實同他在蓋其為加利利之人”(L22-59)のような用例があり、原典英語は“Then about an hour later still another kept insisting, (about one hour)”となっている。この用例の“半箇時辰”は60分間を指すことになり、上述の例との間にはやはり些かの混乱があるようである。初期漢訳聖書と文理訳聖書の同一章節の本文はそれぞれ【聖】が“半個時辰”、【改】が“半時”、【DL】と【BM】が“片時”、【GF】と【和】が“半時”である。“半個時辰”が一例のみで“片時”が表す時量もあまり明確ではないが、ここでの“半”はいずれも“an hour”つまり60分間を表しており、基本的には“時”即ち“一個時辰”イコール120分間という伝統的な表現形式に依っていることが分かる。

初期漢訳聖書の時量の翻訳には二種類の異なる言い方があって、上述の内容からも、モリソン等の翻訳者たち自身が“an hour”が表すこの時量を中国の時間概念の中でどのように表現すれば良いのか、二つの表現のあいだで揺れがあり、正しく理解できていなかったことが分かる。また【神】の本文には例えば“此晚來者止作一時的工惟爾使伊等均與我們負日之重勞之熟者也”(M20-12)のように“一時”が60分間を表す場合もある。ちなみにその英語欽定訳は“These last worked only one hour.”である。モリソンは字典で西洋と中国で異なる時間表現に対して正確な認識で解釈を加えているが、聖書の漢訳では正しい認識が表れていない。

このほか、J11-9には、イエスが弟子たちに対して昼間は12時間あると語っている場面があるが、英語欽定訳では“twelve hours”、【四】は“十二時”、【神】は“十二個時辰”、【聖】も

6) 『西游地球聞見略伝』(1819) 16葉オモテ参照。

7) 尾崎實(1980) 10頁参照。

同じく“十二個時辰”、【改】は“個”が無くなって“十二時辰”、【BM】は“十二時”と言うように、これらの漢訳聖書では“hour”はいずれも60分間を表している、西洋式の数値であると言える。一方で、【DL】【GF】【和】の“hour”が表しているのは120分であり、中国の伝統的な概念であると言える。下表（表2-1及び2-2）は初期漢訳聖書と後続の文理訳聖書の時間表現を一覧にしたものである。

（表2-1） 初期漢訳聖書

書章節	ギリシャ語 対訳英語	英訳	【直】	【四】	【神】	【聖】
M26-40	one hour	one hour	半晷	-	一個時辰	一個時辰
Ma14-37	one hour	one hour	-	一時	一個時辰	一個時長
J11-9	twelve hours	twelve hours	-	十二時	十二個時辰	十二個時辰
L22-59	one hour	an hour	-	-	半箇時辰	半個時辰
M20-12	one hour	one hour	半晷	一時	一時	一時

（表2-2） 後続の文理訳聖書

書章節	ギリシャ語 対訳英語	英訳	【改】	【DL】	【BM】	【GF】	【和】
M26-40	one hour	one hour	一時辰	片時	片時	片時	片時
Ma14-37	one hour	one hour	一時	片時	片時	片時	片時
J11-9	twelve hours	twelve hours	十二時辰	六時	十二時	六時	六時
L22-59	one hour	an hour	半時	片時	片時	半時	半時
M20-12	one hour	one hour	一時	片時	一時	半時	片時

5 さいごに

清代後期の中国は時間表現が中国の伝統的な形式から西洋式の新しい表現に移る過渡期であった。このような時間表現の変換期に、漢訳聖書はどのように時点と時量を表現したのかと言うと、まず、時点についてはギリシャ語原典（英語対訳）が夜の時間帯を四つの時段に分割したが、初期中国語訳聖書ではこれを中国の伝統的な“更”の言い方に基づいて夜の時間を五分割したことにより、原典と漢訳との間で違いが生じた。その後、時代の変遷に従って、後続の文理訳聖書では時点の表現が伝統的な十二支の表現形式におさまっていった。次に、時量については、初期漢訳聖書の“時”と“時辰”には西洋式の60分間を表すものと、中国の伝統的な120分間を表すものがあり、二つの概念の間で混乱が存在していたが、これも後に“時”と“時辰”はともに120分間を表す中国の伝統的な表現形式に収斂していった。要するに、時点と

時間を表す時間表現は、文理訳聖書においては最終的に中国の伝統的な時間概念に基づいて翻訳を完成することになったと言える。

主要参考文献・資料

モリソン（馬礼遜）（1819）『西游地球聞見略伝』

尾崎實（1980）「時点と時段——「～点鐘」の用法から——」関西大学中国文学会《関西大学中国文学会紀要》第8号

盐山正纯（2009）「近代汉译圣经的异文化翻译——以时间表现为中心——」*Linguistic Exchanges between Europe, China and Japan*, pp. 93-109, TIELLEMEDIA EDITORE

Dialogues and detached sentences in the Chinese Language; with a free and verbal Translation in English, Macao: The Honorable East India Company's Press, Robert Morrison (1816).

A Dictionary of the Chinese Language, Part III, London: Black, Parbury, and Allen, Robert Morrison (『英華字典』) (1822).

A Dictionary of the Chinese Language, (五車韻府), Shanghai: London Mission Press; London: Trübner, Robert Morrison (1865).

The Interlinear NRSV-NIV Parallel New Testament in Greek and English, Zondervan Publishing House, Alfred Marshall (1993).

The Bible Authorized King James Version With Apocrypha, Oxford university press, R. Carroll, S. Prickett (1997).

